

森林×脱炭素チャレンジ2022





令和4年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

受賞者紹介

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰とは、緑化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人又は団体に対し、内閣総理大臣が決定し、表彰を行うものです。

令和4年は13の個人・団体が受賞されました。受賞者の方々をご紹介します。
過去の受賞者については林野庁ウェブサイトをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson_ryokka/hyosyo/index.html



大原西公園愛護会 (神奈川県)

同会は、横浜市にある大原西公園が公開された昭和51年より活動を始め、

- ① 自治会の約360世帯すべてが同会の構成員となり、連合自治会、小学校等と連携しながら、花苗の植え付けなどに長年取り組んでいること
- ② 公園内での緑化活動等をまとめた季刊誌の発行などにより広報等にも努めていること
- ③ 公園のみならず、近隣企業、町内会、小学校や団体と連携して、プロムナードの清掃や植栽、ホタルの育成等を行う「中堀川いこいの場づくり」を続け、幅広い世代に環境の大切さを広めていることなどが評価され、受賞されました。



▲公園花壇の整備



▲大原西公園愛護会のメンバーなど



2022
No.184



webアンケートにご協力をお願いします!

<https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/form/kouhou/202207.html>



CONTENTS

- 03 **特集** 森林×脱炭素チャレンジ2022
- 08 TOPICS 01 しいたけの原産地表示が変わりました!
- 10 TOPICS 02 第6回「山の日」全国大会が山形県で開催されます!!
- 12 TOPICS 03 第72回全国植樹祭 しが2022 木を植えよう びわ湖も緑のしずくから
- 13 TOPICS 04 令和4年度木材利用優良施設等コンクール 応募施設等を募集中!
- 14 森林環境譲与税を活用した取組 ~地球を潤す森林環境保全へのプロセス~Vol.4 徳島県 市町村の新たな森林管理の推進と森林資源の活用に向けて
- 16 国有林野事業の取組 世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄北部及び西表島」の保護管理について
- 18 TOPICS 05 2021年度の「林業遺産」に3件が選定されました
- 19 みどりの女神が行く!

表紙の写真：アベマキの林

(広島県三次市、提供：アサヒグループジャパン株式会社)



森林×脱炭素チャレンジ2022

脱炭素への貢献をはじめ、様々な活動内容から
企業による森林づくりを顕彰



日本の国土の3分の2は森林が占め、これらを適切に整備、保全することは、森林による二酸化炭素吸収量の確保・強化につながり、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献します。また、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全といった公益的機能を発揮させる上でも重要であり、公的な資金を活用し、森林整備に取り組んでいます。

一方で、SDGsやESG投資への関心が高まる中、企業等が支援等を行って森林づくりが全国で広がっています。民間の活力を生かした森林づくりは森林整備による地球温暖化対策を国民運動として展開する上で、また、豊かな自然を未来に守り伝えるためにも重要です。このため、さらに多くの企業等に森林づくり

へご参画いただくことを目指し、今回、企業等による森林づくりを「脱炭素」という視点等から顕彰する新たな取組「森林×脱炭素チャレンジ2022」を行うこととしました。

今回選ばれた10件の受賞者について取組の概要をご紹介します。

- 応募期間：令和4年2月18日～4月8日
- 応募数：55件
- 審査基準：令和2年及び令和3年の間に行った森林整備について、「整備した森林のCO₂吸収量」「森林整備の取組内容」を総合的に判断
- 応募対象：令和2年及び令和3年の間に自ら又は支援により森林整備を行った法人、団体、個人、地方公共団体
- 受賞者公表：5月13日

グランプリ（農林水産大臣賞）

アサヒグループジャパン株式会社

816t-CO₂ / 年

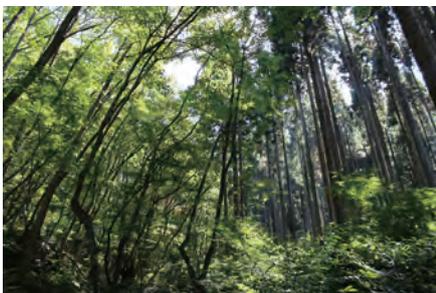
同社は、ビール瓶の王冠に使用するアベマキの樹皮を採取するため、1941年に広島県内の山林を取得し、社有林「アサヒの森」として継続的に管理してきました。森林認証の取得、森林経営計画の認定を受け、森林整備を計画的に行い、持続的な森林経営を実践しています。

2021年からは、社有林だけでなく、その近隣の財産区と森林保全管理協定を締結し、社有林と一体的な管理を行っています。長年にわたるアサヒの森の経営ノウハウを活かして、地域の環境保全に貢献するとともに、財産区に収益を還元しています。また、

地元の小学校や大学と連携し、アサヒの森を活用した森林環境教育を実施しており、地域の子ども達が森林や林業へ関心を持つきっかけとなっています。

アサヒの森では、生物多様性の保全に向け、継続的に動植物の調査を行っており、ブッポウソウの巣箱設置など希少種の保全にも取り組んでいます。

さらに、文化財修復用の木材や檜皮などを提供する森林として、文化庁より「ふるさと文化財の森」の認定を受けるとともに、同社の国内ビール工場で使用する水相当量を、アサヒの森が地下水として安定的に供給する「ウォーターニュートラル」を目標に掲げて森林の経営管理に取り組んでおり、アサヒの森が生み出す恵みは、地域に大きく貢献しています。



アベマキ林と針葉樹林



巣箱を活用するブッポウソウ



優秀賞（林野庁長官賞） — 「伐って、使って、植える」森林の循環利用への貢献 —



森林整備（利用間伐）



四万十町庁舎（結の森の間伐材家具を使用）

コクヨ株式会社

842t-CO₂ / 年

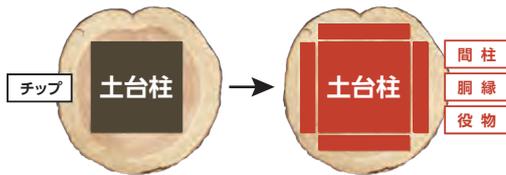
同社は、高知県、四万十町、四万十町森林組合との4者で協定を締結し、2006年より四万十町の民有林の整備・保全活動を行う「結の森プロジェクト」を展開しています。

森林資源の持続的な活用を通じて森林保全を図るとい考えの下、四万十町森林組合との連携により、整備した森林から生産された間伐材を活用した家具を開発し、全国で販売しています。

また、毎年、地元の人々と協働で、間伐による植生や生態系の変化などに関する調査を実施し、適切な森林整備の効果を発信しており、地元高校生の学びの場としても高く評価されています。

効率型・量産型

歩留型



歩留まりを向上させる木取方法



大分のパートナー製材所の作業

越井木材工業株式会社

346t-CO₂ / 年

同社では、社有林を適正に経営管理することは、SDGsの達成や地球温暖化対策に貢献するという考えの下、森林経営計画の認定を受けて、植林から木材利用に至る持続的な森林経営に取り組んでいます。

特に、再造林の促進に向けて、生産された木材の販売収益を高め、山元へ還元できるよう取り組んでいます。具体的には、木材を無駄なく使うよう、歩留まりを高める製材を推進すべく、理念に共感する製材所などとの間で、サプライチェーンの構築に取り組んでいます。

このサプライチェーンには、各地域の森林組合や原木市場も参画し、社有林からはじまった取組が全国へと波及しています。

一般社団法人

TOKYO WOOD 普及協会

42t-CO₂ / 年

同協会は、「メイドイントーキョーの家づくり」を合言葉に、東京の木による家づくりを通じ、健全な森林を維持していくことを目的として、多摩地域の林業会社、製材所、プレカット事業者、工務店によって結成されました。

同協会では、会員の製材所が生産する木材について、厳しい品質基準を設定し、この基準をクリアした木材を「TOKYO WOOD」と名付け、ブランド化し、会員であるプレカット事業者、工務店に供給することで、地産地消の家づくりを実現しています。

また、施主やその家族を森林や製材所に案内するツアーを開催するなど、東京の木による家づくりの意義を消費者に伝え、持続的な森林づくりに取り組んでいます。



「TOKYO WOODの家」の建築



「TOKYO WOODの家」建築予定者のバスツアー



優秀賞（林野庁長官賞） — 山村地域の振興への貢献 —



笛吹芦川での植樹



地域文化との交流（熊本山都ツアー）

認定特定非営利活動法人
環境リレーションズ研究所

100t-CO₂ / 年

同団体は、「贈り物に木を植えよう」を合言葉に、全国の造林未済地や災害跡地などにおいて、都市部の個人や法人などの寄付により、大切な人や自分自身への「贈り物」として記念樹を植栽する「プレゼントツリー」の取組を運営しています。

この取組では、記念樹は、森林組合等の現地協働者により植栽、以後10年間に亘り保育管理され、これらは寄付金で賄われます。さらに、記念樹を贈られた方を現地に招いて植樹や保育活動を実施するとともに、地元住民や林業事業者などが参加する交流イベントを開催します。

各地域の自治体からは、この取組を通じて、交流人口の増大にもつながると期待が寄せられています。



「ごうぎん希望の森」での活動



連携組織「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」での会員交流

株式会社山陰合同銀行

41t-CO₂ / 年

同行は、地域金融機関として、地域課題の解決など地域経済・社会の持続可能性を高めるための活動に取り組みできました。

その一環として、2006年から、島根・鳥取両県の6カ所の「ごうぎん希望の森」において、行員やその家族のボランティアによる森林整備を行うとともに、その活動状況を広報誌やポスターにより情報発信し、普及啓発に取り組みできました。

さらに、森林保全活動に関わる地元NPO法人・団体間の情報交換や交流促進に向けた連携組織を立ち上げ活動を支援するなど、森林づくり活動を通じた地域活性化に貢献しています。



広葉樹林整備の技術研修会



「ホワイトパーチ×イケダ」のシラカバのコースター

北海道 池田町

10t-CO₂ / 年

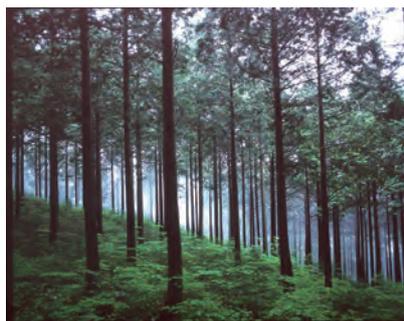
同町は、地場産業である木炭製造と、長年手つかずの状態であった広葉樹林の整備を進めるため、森林整備に関する技術研修会などの開催を通じて、森林管理に関心のある地元住民などの協力による多様性に富んだ森林づくりを進めています。

間伐された広葉樹の丸太を、町内の製炭事業者のほか、シラカバの樹皮や丸太を活用した木工製品を製造する地元のクラフトブランド「ホワイトパーチ×イケダ」へ供給することで、地元産業の振興に貢献しています。

また、これら広葉樹林は、森林資源を活用した物づくりをテーマとした、地元高校生に対する森林環境教育の場としても活用されています。



優秀賞（林野庁長官賞） — 森林の有する公益的機能発揮への貢献 —



“保続林業”の理念の下整備された社有林



林業用運搬ドローンの開発、販売



コンテナ苗（カラマツ）

住友林業株式会社

3,415t-CO₂/年

同社は、全国に社有林を有しており、森林の公益的機能を保ちながら、森林を持続的に活用する「保続林業」の基本理念の下、森林認証を取得し、経営管理を行っています。

社有林をゾーニングし、環境保全を重視するエリアで間伐等の森林整備を行いながら、木材生産を重視するエリアでは公益的機能の発揮に配慮した皆伐、コンテナ苗木を利用した再造林に取り組んでいます。

様々な生物の生息域となる河川等に隣接する水辺林の保全や希少種の保護など生物多様性の保全に努めるとともに、森林経営・木材建材製造・木造建築などの「木」を軸とした事業展開により、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいます。



妹の誕生を記念し、苗木を植えるお兄ちゃん



植樹者名簿とメッセージ集

ピジョン株式会社

40t-CO₂/年

同社は、1986年より「育兒と育樹、心はひとつ」をスローガンに、赤ちゃんの誕生を記念した植樹キャンペーンを実施しています。このキャンペーンでは希望者の中から赤ちゃんとその家族を招待し、茨城県の「ピジョン美和の森」で毎年植樹式を行っています。

植樹後は、地元の美和木材協同組合の協力の下、下刈りや枝打ちなど森林管理を行っています。元々針葉樹が主体であった森林に広葉樹を植栽して針広混交林化を図るとともに、「ビオトープを整備するなど、生物多様性の保全に取り組んでいます。

これまでキャンペーンに参加した家族が子どもの成長の節目に森へ訪れるなど、都市部住民に自然環境とふれあう機会を提供しています。

公益財団法人 ニッセイ緑の財団

147t-CO₂/年



ボランティアによる間伐作業



ふれあい森林教室

同財団は、1993年より、全国の「ニッセイの森」において、ボランティアなどによる森林整備を実施し、これまでに延べ3・9万人により138万本の植樹を行い、針広混交林など多様な森林づくりに取り組んでいます。

「ニッセイの森」の多くは、国有林で分収造林契約を結んだ森林です。国有林を管理する各森林管理局では、契約を結んでいる森林について、毎年、二酸化炭素固定量、水源涵養等の「環境貢献度評価」を行っており、同財団では、その結果を広く発信しています。

また、「ニッセイの森」では、小学生を対象としたふれあい森林教室を開催するなど、多くの人々の森林への理解・関心の向上に貢献しています。



森林×脱炭素チャレンジ2022 表彰式を開催



木製銘板を持つ受賞者代表の皆様

注：胸章は、宮崎県の福祉施設がスギのカナクナで製作したものを着用。



詳細はこちら



6月22日、農林水産省本館7階講堂において「森林×脱炭素チャレンジ2022」の表彰式を開催しました。

当日は、受賞企業等の代表者や社員の方々、報道機関など総勢60名にご参加いただき、農林水産省からは、武部農林水産副大臣が出席し、祝辞を述べました。続いて挨拶を行った天羽林野庁長官(当時)は、「本取組を含め、企業など多様な主体が森林づくりに取り組みやすい環境整備を進めていきたい」と意欲を述べました。

グランプリを受賞したアサヒグループジャパン株式会社代表取締役社長の濱田様からは、「今回の顕彰の取組は、森林の脱炭素機能発揮等における森林整備の重要性を世の中に広く周知する契機となる。」と本顕彰の取組に対する期待の言葉をいただきました。

受賞者代表の皆様には、木製の表彰状や楯を贈呈し、木の香りに包まれて大変和やかな会となりました。

また、表彰式の後には、受賞者名と二酸化炭素吸収量を記した木製銘板を林野庁長官室前に掲示しました。

企業による森林づくりの取組を普及

受賞者の取組内容やその背景等を伝える「受賞者レポート」

「森林×脱炭素チャレンジ2022」受賞者による森林づくりの取組内容やその背景について、分りやすく説明した「受賞者レポート」を林野庁ウェブサイトで公開しています。



森林づくりを通じて脱炭素に貢献する証「グリーンパートナー2022マーク」

「森林×脱炭素チャレンジ2022」に応募いただいた企業等の皆様については、森林整備を通じて脱炭素に貢献する「グリーンパートナー2022」として、林野庁ウェブサイト上で応募者名及びCO₂吸収量等を公表しています。

また、「グリーンパートナー2022」の皆様には、右のマークを森林整備に係る取組のPRにご活用いただけます。



しいたけの原産地表示が変わりました！

皆さんは、スーパーなどで買い物をする時に、パッケージなどに書かれた表示を確認していますか？普段から、野菜や果物などがどこで生産されたものか気になって確認している、という方は多いのではないのでしょうか。

3月30日に生しいたけの原産地表示のルールが変更となりました。その概要等について改めてご紹介します。



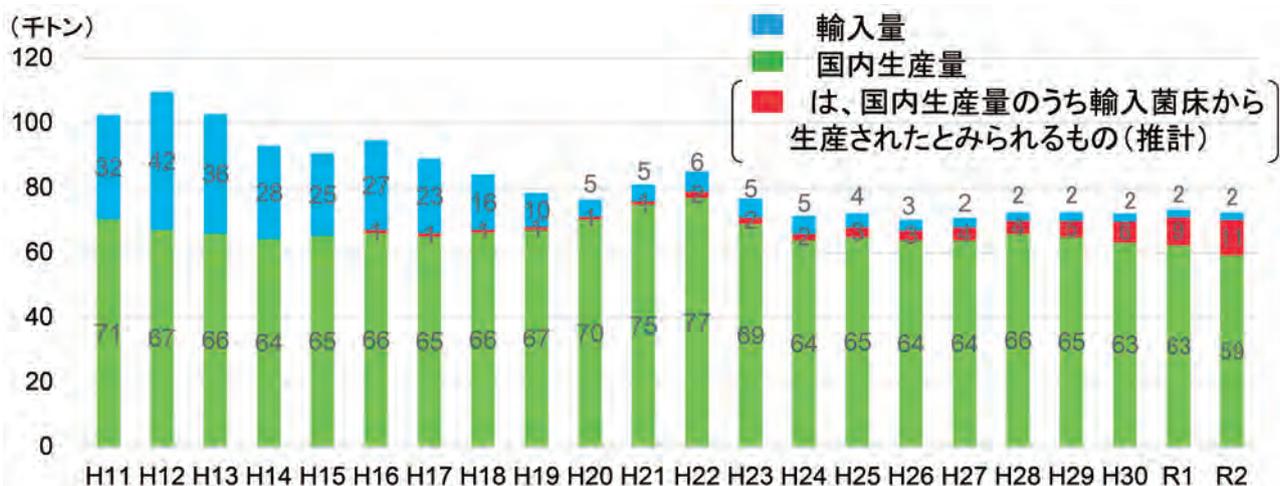
● 原産地表示のルールを

変更するに至った経緯

食品への表示は、「食品表示法」に基づき策定された「食品表示基準」に従って行う必要があります。例えば、野菜、果物、肉、魚などの生鮮食品は、一般的な名称や原産地を必ず表示しなければなりません。

生鮮食品であるしいたけの原産地表示については、これまで、他の農産物と同様にしいたけを採取した場所を原産地として表示することとされてきました。しかし、しいたけの場合は、しいたけの畑とも言える菌床やほだ木の製造された場所としいたけを収穫した場所が異なる場合があります。近年は、海外から輸入された菌床から育てたしいたけを国内で収穫し、国産として出荷する例が増えてきたことから、海外で生産された菌床由来のしいたけと、国内で生産された菌床由来のしいたけを消費者が区別することができない状況となっていました。（グラフ1）

このため、しいたけの栽培の実態を反映するとともに、消費者が誤認することなく合理的に食品の選択ができるよう、3月30日に消費者庁が食品表示基準Q&Aを改正し、「しいたけは栽培管理上、菌糸が培地の中に伸張するまでの培養初期段階の環境が子実体の形成に大きな影響を及ぼすと考えられているため、原木（ほだ木）又は菌床培地に種菌を植え付けた場所（植菌地）を原産地とする。」との考え方を示し、植菌地を原産地として表示することが義務となりました。



資料：農林水産省「特用林産基礎資料」、財務省「貿易統計」

注：輸入菌床による国内生産量は推計値（貿易統計が存在する平成15年以降を記載）

グラフ1 生しいたけの国内生産量及び輸入量の推移（原木含む）

●新しい原産地表示のルール

原産地表示のルール変更により、生鮮食品である生しいたけについては、原木栽培、菌床栽培ともに「種菌を植え付けた場所（植菌地）＝原産地」となり、例えば、「A県で植菌を行い、B県で採取した場合、従来は「B県」であった原産地が、「A県」となりました。（図1）

実際の表示に当たっては、原産地（植菌地）に加え、任意で採取地（収穫地）を表示することも可能となっています。（図2）



図1 改正後の原産地表示（原木も菌床も原産地＝植菌地）



図2 原産地表示の一例



図3 改正の趣旨を説明した漫画

また、この変更に伴い、乾しいたけを含むしいたけ加工品（原材料に占める重量割合が最も高い原材料がしいたけである加工品）の原料原産地表示についても、例えば、原材料である生しいたけの原産地が今回の改正により「B県」から「A国」へ変更となった場合は、原料原産地名を「国産」から「A国産」に変更する必要があります。

なお、消費者への周知及び事業者の表示切り替え等のための経過措置として、生鮮食品であるしいたけは9月末まで、しいたけ加工品は令和5年3月末までは、従前の原産地表示も可能となっています。

●栽培原料の原産地を表示する取り組み

今回の改正とは別に、全国食用きのこ種菌協会では、菌床やほだ木の原料が国産であることを表示する、栽培原料原産地商標マーク（通称、どんぐりマーク）の自主的な取組が進められています。（図2）全国食用きのこ種菌協会とその正会員のほか、協

会と協定を結んだ都道府県により使用許諾が行われています。

●林野庁ホームページをご覧ください

林野庁では、今回の改正内容について、チラシを作成し、配布するほか、よくある質問への回答等を作成し、ウェブサイトで公開しています。また、原木しいたけと菌床しいたけの生産工程の違いも含め、改正の趣旨を説明した漫画（図3）も作成していますので、ぜひご覧ください。

●おわりに

しいたけをはじめとする栽培きのこは、林業産出額のおよそ半分を占め、山村地域の産業として重要な役割を果たしています。さらに、原木となる広葉樹の循環利用により、国内の森林の健全な育成にも役立っています。

皆さんもしいたけを購入する際は原産地表示やどんぐりマークに注目してみてください。



蔵王・お釜 (熊野岳)

TOPICS
2

第6回「山の日」全国大会が 山形県で開催されます!!

**東北で
初開催!**

日本は、国土の約7割を森林が占め、その多くが「山」に存在しています。日本人は古来、山に畏敬の念を抱き、森林からの恵みに感謝し共存してきました。

この豊かな森林の恵みに感謝し、美しい山を次の世代に引き継ぐため、平成28年に国民の祝日として、8月11日を「山の日」とすることが定められました。

「山の日」の制定を記念し、毎年、「山の日」全国大会が開催されており、子供から大人まで幅広い世代の方々に、山の魅力や森林の素晴らしさを感じていただく機会となっています。

今年も、8月10日(水)、11日(木)に「山を想い、山を愛し、山と生きる」樹氷輝く蔵王のやまがたから、未来へ」をテーマに、山形県の山形市と上市市で開催されます。

山形県には、蔵王山・月山・鳥海山・大朝日岳・飯豊山・西吾妻山などの日本百名山に選定された著名な山々のほか、古くから山岳信仰の対象となり精神文化の礎となっている山、クアオルト(気候性地形療法)などの健康づくりに利用されている山、地域で身近に親しまれ様々な恵みをもたらしてくれる里山などがあります。

「山の日」全国大会では、これら

の山の魅力や、山を支える人々の営み、山の恵みなどを全国に広く情報発信するため、記念式典のほか、やまぎん県民ホール(山形市)において、著名人によるトークイベントや歓迎フェスティバル(グルメ・特産品コーナー、展示・体験コーナー)などが開催されます。

また、この夏は山形県のほか、全国各地で自然体験や森林教室などのイベントが開催されます。

新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと講じた上で、是非参加いただき、山や森林に親しみを感じてみてはいかがでしょうか。

「山の日」全国大会 過去の開催地

開催日(記念式典等)	開催地
第1回(H28.8.11)	長野県松本市
第2回(H29.8.11)	栃木県那須町
第3回(H30.8.11)	鳥取県米子市・大山町
第4回(R1.8.11)	山梨県甲府市
第5回(R3.8.11)	大分県九重町・竹田市

「山の日」を普及啓発する行事(7~8月)

森林管理局	日程	行事名	参加人数(予定)	実施場所(都道府県・市町村)	主催者
北海道	8月27日	「山の日」記念散策会	30名	北海道小清水町 ほか	網走南部森林管理署・常呂川森林 ふれあい推進センター
東北	7月中	「山の日」記念 森林環境整備活動	ボランティア 30名程度	眺望山自然休養林 (青森県青森市)	眺望山・梵珠山自然休養林 保護管理協議会
東北	8月6日	「山の日」記念 仁別の森林(もり) で遊ぼう!夏休み親子森林教室	親子5~10組 (最大20名程度)	仁別森林博物館 (秋田県秋田市)	東北森林管理局 技術普及課
東北	8月10日	第6回「山の日」全国大会 蔵王記念登山	100名	山形県・山形市・ 上山市	第6回「山の日」全国大会 実行委員会(山形県)
関東	7月30日	赤谷の森自然散策(夏)	20名	群馬県みなかみ町	赤谷森林ふれあい 推進センター
関東	7月24日	親子「子ども樹木博士」 チャレンジ!2022	40名	福島県福島市	福島民有新聞社
中部	8月6日	美女平の植生調査体験	40名	富山県立山町	富山県自然保護課
中部	8月11日	「山の日」四方山祭り in 上高地	未定	長野県松本市 (上高地)	松本市・環境省
中部	7月30日~ 8月15日	夏休み自然体験イベント トムソーヤクラブ村 木曾・上松	未定	長野県木曾郡上松町 (赤沢自然休養林)	上松町観光協会
中部	7月1日	森林教室(自然散策)	39名	長野県木曾郡 南木曾町	木曾森林管理署 南木曾支署
中部	8月11日	なかつがわ 「山の日(サンデー)」	未定	岐阜県中津川市	岐阜県、中津川市、 東濃森林管理署
近畿 中国	8月9日	第37回夏休み木工教室	20名	和歌山県田辺市	和歌山森林管理署・ 和歌山県西牟婁振興局

過去に開催された「山の日」のイベント



▲「子ども樹木博士」チャレンジ(福島県)



▲森林環境整備(青森県)



▲散策会(北海道)



▲木工教室(和歌山県)



▲親子森林教室(秋田県)



▲散策会(北海道)



TOPICS
3



第72回

全国植樹祭

しが
2022

木を植えよう びわ湖も緑のしずくから



トチノキをお手植えされる天皇陛下 (提供: 滋賀県)



ホンシャクナグをお手播きされる皇后陛下 (提供: 滋賀県)



おことばを述べられる天皇陛下 (提供: 滋賀県)



式典会場



記念植樹をする金子農林水産大臣

6月5日、「木を植えよう びわ湖も緑のしずくから」をテーマに、天皇皇后両陛下のオンラインでのご臨席のもと、滋賀県甲賀市鹿深夢の森で「第72回全国植樹祭」が開催されました。

滋賀県では、昭和50年5月25日に栗東市(当時の栗太郡栗東町)で「第26回全国植樹祭」が開かれ、天皇皇后両陛下によるお手植え(ヒノキ、モミジ)などの式典行事が行われており、今回の大会は2回目の開催となります。

式典前のプロローグでは、古くから人々の暮らしと関わり、滋賀県の文化を担ってきた豊かな琵琶湖と、その周りを取り囲む森林との繋がりが映像とダンスで紹介されました。

式典では、天皇陛下から「健全な森林を育み、木々を木材として循環利用しながら、次の世代、またその次の世代へと引き継いでいくことは、私たちの果たすべき大切な使命であると考えます」とのおことばを賜りました。また、細田博之国土緑化推進機構会長(衆議院議長)及び三日月大造滋賀県知事のあいさつがあったほか、全国の緑化功労者や各種コンクールの表彰が行われ、金子原二郎農林水産大臣などによる記念植樹が行われました。

赤坂御用地では、天皇陛下がスギ(少花粉スギ「近江さわやか杉」)、トチノキ、アカガシの苗木を、皇后陛下がヒノキ、イロハモミジ、エドヒガンの苗木をそれぞれお手植えされました。また、天皇陛下はクロマツとコウヤマキ、皇后陛下はウツクシマツとホンシャクナグの種子をお手播きされました。

最後に、濱田純一国土緑化推進機構理事長が大会宣言を行い、三日月滋賀県知事から来年全国植樹祭が開催される岩手県の達増拓也知事に、全国植樹祭のシンボルである「木製の地球儀」を手渡しして幕を閉じました。

次回の第73回全国植樹祭は、来春、岩手県の高田松原津波復興祈念公園を主会場に開催される予定です。

全国植樹祭とは

全国植樹祭は、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する理解を深めるため、昭和25年から各都道府県を巡って毎年春季に開催されている国土緑化運動の中心的な行事です。



令和4年度木材利用優良施設等コンクール 応募施設等を募集中!

国産材利用推進部門
を新設!

木材利用優良施設等コンクール（主催：木材利用推進中央協議会）は、木材利用の一層の推進を図り、国産材の需要を拡大するため、地域の木材を持続的かつ有効に活用した施設や、木造・木質化への新たな提案、地球温暖化防止等への配慮がなされている施設などについて、審査・表彰するものです。内閣総理大臣賞をはじめとする大臣賞等と、これに続く優秀賞を選定します。

今年度から新たに文部科学大臣賞を創設するほか、国産材の取扱量が多いなど国産材の利用拡大に向けた取組を積極的に行う建築事業者等を表彰する「国産材利用推進部門」を設け、農林水産大臣賞等を選定します。

受賞者はホームページや事例集を作成し、紹介・PRいたします。たくさんのご応募をお待ちしています!

令和3年度を受賞施設

内閣総理大臣賞 あわくら会館（岡山県西粟倉村）



農林水産大臣賞

高惣木工ビル
（宮城県仙台市）



国土交通大臣賞

タクマビル新館（研修センター）
（兵庫県尼崎市）



環境大臣賞

流山市立おおぐろの森小学校
（千葉県流山市）



(株)川澄・小林研三写真事務所

応募先：

木材利用推進中央協議会HP：<https://www.jcatu.jp/concours/>
上記HPから応募様式をダウンロードし、下記応募フォームよりご応募ください。

応募フォーム：

https://www.jcatu.jp/concours_r4/index.php

応募期間：7月8日（金）～8月29日（月）

審査費用：無料



【お問い合わせ】

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3
木材利用推進中央協議会 担当[角、米望、黒江]
TEL：03-3580-0335

市町村の新たな森林管理の推進と 森林資源の活用に向けて

1 徳島県の現状

徳島県の森林面積は、約315千ha（総土地面積の75.5%）で、民有林人工林面積は約190千haです。また、スギ・ヒノキ人工林のうち、75%は10歳級以上で利用期を迎えています。この豊かな森林資源を核とした地方創生を目指し、令和元年度より「スマート林業プロジェクト」を展開し、「担い手の育成」や「高性能林業機械の導入」などにより、令和10年度の「県産材生産量70万m³」の達成に向け取り組んでいます。

2 森林環境譲与税の主な取組

徳島県では、県に譲与されている森林環境譲与税を活用して、市町村における事業実施の支援に加え、人材の育成・確保や木材利用の促進を

森林資源の活用に向けて

中心に、幅広い事業を展開しています。今回はその一例を紹介いたします。

令和3年度譲与額：117,953千円

① 森林経営管理制度の推進に向けた市町村への支援（令和3年度決算見込額：16,142千円）



写真1 とくしま森林経営管理協議会

令和元年度からスタートした森林経営管理制度は、市町村が主体となつて森林の管理を行う新たな制度であることから、森林環境譲与税を活用して、市町村が円滑に制度を運用するための支援を行っています。

その一環として、制度の運用開始に備えて、平成30年5月に、県内24市町村と徳島県、徳島森林づくり推進機構など関係機関で構成する「とくしま森林経営管理協議会」を設置しました。同協議会では、林野庁の担当を招いた森林経営管理制度や森林環境譲与税に関する情報伝達や、市町村担当者による森林環境譲与税の活用事例報告などの情報共有に取り組んでいます。

また、市町村が森林経営管理制度や森林環境譲与税を活用して経営管理を行う森林は、施業の進んでいない条件が不利な森林を対象とするた

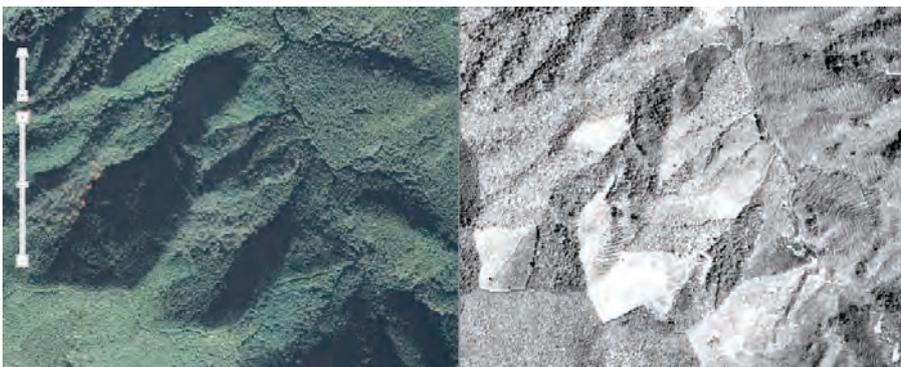


写真2 徳島森林情報管理システム（森林GIS） H21（左）、S40年代（右）

め、対象地区を選定する基礎資料として活用できるよう、県が保有する森林情報管理システムの改良や、過去の施業履歴データ等を市町村に提供しました。

さらに、市町村が施業を行う森林の境界の明確化を進められるよう、植栽当時の状況から森林の境界を推定することが可能な過去の航空写真データを整備して、提供しました。



写真3 とくしま林業アカデミー（伐倒理論実習）

② 林業の担い手育成・確保（令和3年度決算見込額…59,588千円）

「即戦力」となる若手林業就業者を養成するため、平成28年度に、「とくしま林業アカデミー」を設立しました（公益社団法人徳島森林づくり推進機構が運営）。徳島県は、森林環境譲与税を活用して、同アカデミーの運営経費（研修に必要な林業機械のリース代等）への補助を行っています。

これまで、83名の卒業生全員が県内林業事業体へ就職しました。卒業生の求人倍率は3倍を超え、業界からの要望も高いことから、令和5年度・第八期研修生の募集に当たって

は、定員をこれまでの20名から30名に拡大しています。

また、「職業としての林業」を意識付けるため、小中高生を対象とした出前授業や林業体験の実施、UI-Jターン者の人材確保を図るための相談窓口の設置に加え、林業体験イベント等の実施、タウン誌・SNS等による林業就業に関する広報も実施しました。

③ 県産材の利用の促進（令和3年度決算見込額…42,224千円）

令和3年10月24日に、都道府県立では全国初となる「徳島木のおもちゃ美術館」がオープンしました。同美術館は、赤ちゃんから高齢者まであらゆる世代の方が集い、森林の役割や重要性、木材の良さなどを「遊び」「学び」「体験」できる「新たな木育拠点」で、「木の香りや温もり」を体感しながら、大いに楽しめる「体験型施設」です。徳島県では、木材の利用や普及啓発の観点から、その整備費の一部に森林環境譲与税を活用しています。

また、県産材の建築資材としての利用拡大を図るため、県木材認証機構による認証県産材を用いて新築改修される建築物において、のぼり旗



写真4 林業体験の実施状況



写真5 徳島木のおもちゃ美術館（外観）

設置や現場見学会の開催を通じ、木材の良さについて一般の方へ普及啓発を行った場合に、木材使用量に

じた工務店等への助成を行いました（10㎡以上15㎡未満20万円等。令和3年度は7件に助成）。



写真6 徳島木のおもちゃ美術館（内観）



3 おわりに

令和6年度から、一人当たり1,000円の森林環境税の徴収が始まることから、今後、森林環境譲与税の用途に対する関心は、一層高まるものと思われれます。このため、県はもとより、市町村と連携しながら、森林環境譲与税の円滑な活用により、しっかりと取り組んでまいります。

世界自然遺産「奄美大島、徳之島、 沖縄島北部及び西表島」の保護管理について

九州森林管理局

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の概要

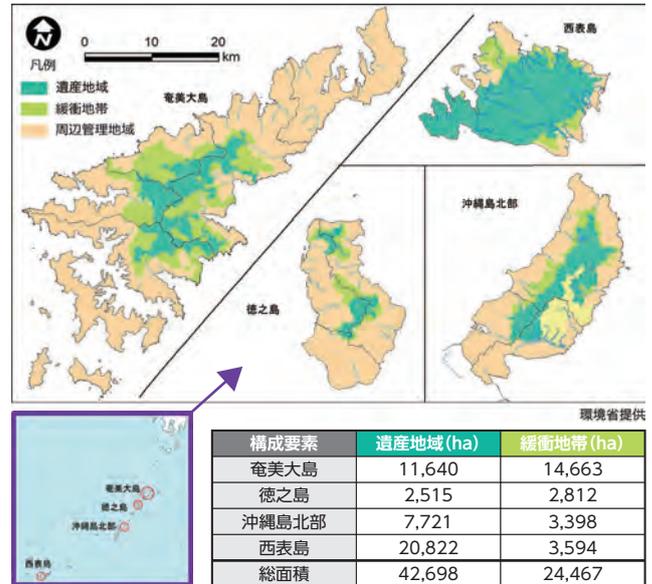
所在地 奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島

遺産地域 42,698 ha

うち国有林 28,891 ha(国有林野率68%)

関係県・市町村 鹿児島県、沖縄県、12市町村(奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、徳之島町、天城町、伊仙町、国頭村、大宜味村、東村、竹富町)

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、イリオモテヤマネコ、ノグチゲラ、アマミノクロウサギ、ヤンバルクイナなど、IUCN(国際自然保護連合)レッドリストの絶滅危惧種95種(そのうち75種は固有種)を含む陸生動植物にとってかけがえのない生息・生育地となっており、生物多様性に富む極めて重要な自然を有しています。



はじめに

九州森林管理局管内の国有林は、九州中央山地から雲仙、阿蘇、九重、霧島、桜島といった火山地帯、対馬や五島、屋久島、奄美群島、南西諸島といった離島まで、南北約1200kmの広範囲に分布しており、多様な森林生態系を有しています。今回は、令和3年7月に世界自然遺産に登録された「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」(以下「遺産地域」という。)

この取組について紹介します。なお、遺産地域の概要や登録までの経緯については、本誌2021年9月号に詳しく紹介していますので、そちらをご覧ください。

保護管理の体制

遺産地域の保護管理に当たっては、管理機関である国、県、市町村で地域連絡会議を設置し、関係行政機関の連絡調整を図りつつ、包括的管理計画やモニタリング計画に基づいて、当該地域の自然環境の保護・管理を適切かつ円滑に進めています。

また、適正な管理に必要な科学的助言を得るため学識経験者による科学委員会を設置しています。当局は事務局の一員となっています。

さらに、登録時に世界遺産委員会

から要請された4つの事項(①適正な観光利用、②交通事故等による絶滅危惧種への被害防止、③河川再生、④緩衝地帯における森林伐採)については、地域連絡会議の下に事項毎のタスクフォースを設置し、対応を検討しています。

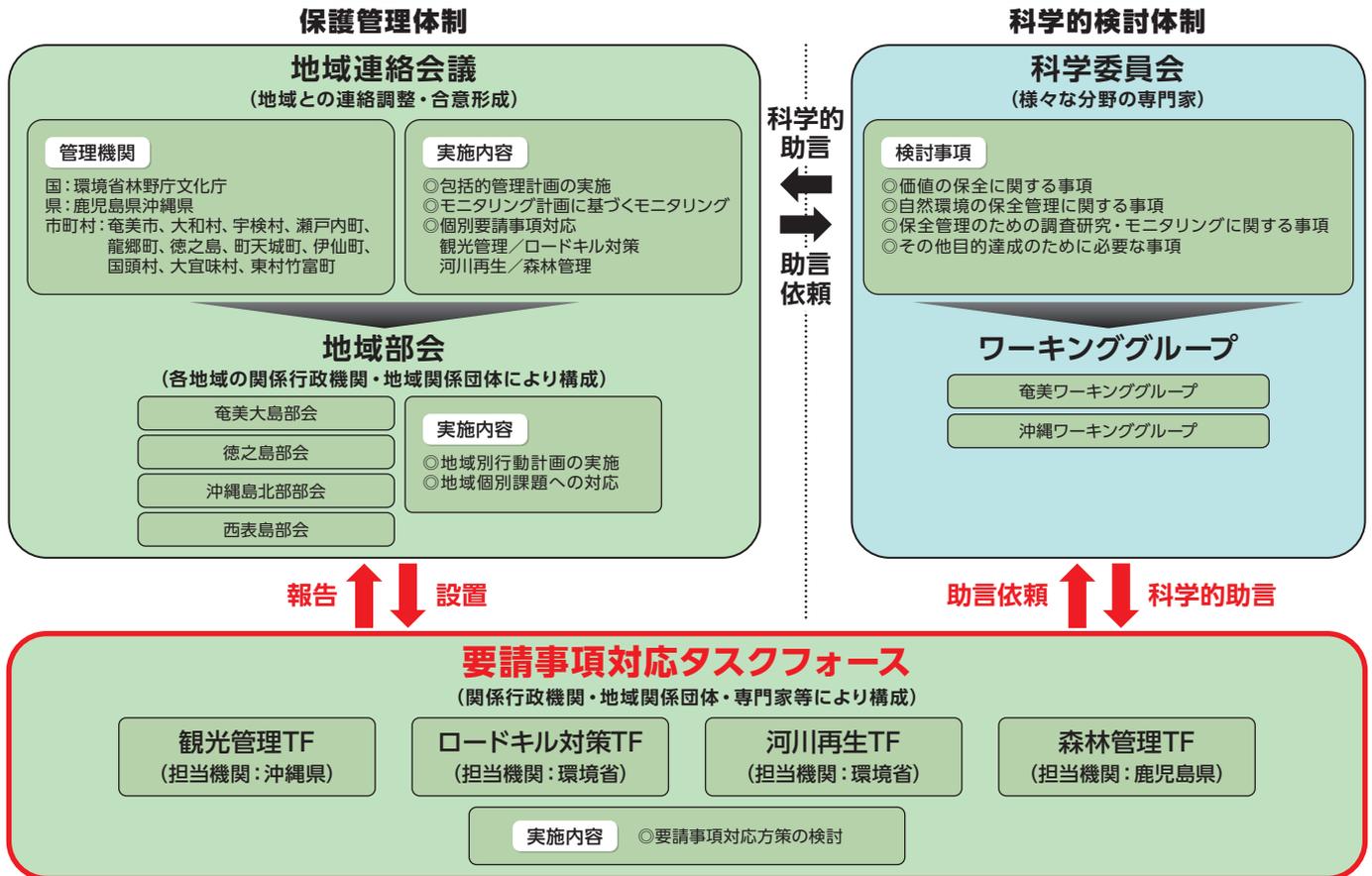
九州森林管理局における保護管理の取組

遺産地域の約7割は国有林野となっており、当局ではその大部分を森林生態系保護地域に設定し、定期的にモニタリングを行い、状況を把握しながら、厳格な保護・管理を行っています。

具体的には、遺産地域の4地域に、鹿児島森林管理署、沖縄森林管理署の森林官をそれぞれ常駐させ、アマミノクロウサギ、イリオモテヤマネコ、リュウキュウヒモラン、タイワンミヤマトベラなど希少動植物の保護を図るための巡視やモニタリング、密猟・盗掘・盗採の防止に係る普及啓発など、関係行政機関や地元の方々とも連携したさまざまな業務を行っています。

また、西表森林生態系保全センターでは、マングローブ林の生育状況や生育環境の調査をはじめ、船浦ニッパヤシ希少個体群保護林や「森の巨人たち百選」にも選ばれている仲間川のサキシマスオウノキ、ウダラ川のオヒルギなどの各種モニタリング調査、ギンネ

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 世界自然遺産管理体制図



希少種保護のための合同夜間パトロール(奄美大島)



巡視時に発見した廃棄物の回収(徳之島)



希少野生生物保護の取組の報告会(沖縄島北部)



地元小学生への森林環境教育(西表島)

ム、アメリカハマグルマなどの外来植物の効果的な駆除に向けた試験、森林環境教育の支援を行っています。貴重な森林生態系を将来に引き継い

でいけるよう、引き続き、関係行政機関、学識経験者、地元関係者と連携しながら、遺産地域の保護・管理に取り組んでまいります。

一般社団法人 日本森林学会

2021年度の「林業遺産」に3件が 選定されました

日本各地の林業は、地域の森林をめぐる人間の営みの中で編み出され、明治期以降は海外の思想・技術も取り入れつつ、大戦期の混乱を経て今日に至るまで、多様な発展を遂げてきました。日本森林学会では、学会100周年を契機として、こうした日本各地の林業発展の歴史を、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、「林業遺産」選定事業を2013年度から開始しました。9年目となった2021年度は、3件を林業遺産（登録No.46～48）として認定しました。選定結果は、2022年5月20日の日本森林学会定時総会において公表され、認定証・記念品が各件の所有者・管理者等に贈呈されました。

「林業遺産」についての詳細情報は、日本森林学会のホームページをご参照ください。

<https://www.forestry.jp/efforts/forestryheritage/>



登録番号	46	47	48
林業遺産名	林業機械化センター保存の森林鉄道車両群と根利森林鉄道遺構	<small>ながほしりふうけつ</small> 長走風穴種子貯蔵庫遺構	旧青森営林局庁舎 (現青森市森林博物館)
認定対象	林業機械化センター保存の車両群、根利森林鉄道遺構	長走風穴種子貯蔵庫遺構群、関連する古写真等	旧青森営林局庁舎
成立年代	車両群：1921年～1961年 森林鉄道遺構：1940年～1952年	1912年	1908年
所在地	群馬県沼田市利根町根利1,445番地 関東森林管理局利根沼田森林管理署管内国有林内	秋田県大館市長走字長走362-3	青森県青森市柳川1丁目4-37
所有・管理者	車両群：林野庁森林技術総合研修所 林業機械化センター 根利森林鉄道遺構：林野庁関東森林管理局利根沼田森林管理署	大館市	青森市
認定理由	森林鉄道の発展過程を理解する上で重要な車両群が保存されており、隣接する森林鉄道遺構と合わせて、当時の技術を現地で理解することが出来る。	種子貯蔵の中核として、近代における東北地方の造林事業を支えた施設である。貯蔵庫部分は完全な形で現存しており、その歴史を今に伝えている。	青森・岩手・宮城3県にまたがる広大な国有林経営の中核的施設であり、貯木場と製材所、森林鉄道が併設する国内最大規模の林業拠点として、青森ヒバの流通に貢献し、地域の発展を支えたという歴史を象徴している。
			

みどりの女神が行く!

第72回全国植樹祭に参加

先月は滋賀県で開催されました第72回全国植樹祭に参加しました。

滋賀県というと琵琶湖が真っ先に思いつきます。県土の約半分にあたる森林が、琵琶湖の水を育む水源として貴重な役割を果たしており、今回の開催場所である、鹿深夢の森もそのうちの一つです。

古くから培われてきた「森林」「琵琶湖」「一人」の関わり。豊かな自然が育まれた会場で、改めて「森・川・里・湖」がつながっていることを確認することができました。

滋賀県の方々が森林を大切に育んできた歴史的経緯や、私が実際に感じた人の温かさを多くの方に知ってもらえるよう心がけて活動していきたいと思えます。



ミス日本みどりの女神

なりた あすみ

成田 愛純



▲植樹祭会場にて



▲滋賀県産の少花粉スズギの植樹

チェーンソーの特別講習を受講

神奈川県厚木市にある神奈川県自然環境保全センターにて、チェーンソーの特別講習を受けました!

以前視察した林業現場では、作業されている方が慣れた手つきでチェーンソーを操り、大きな樹をすんなり伐木している様子がとても格好良かったことを覚えています。その印象が強くて、私もぜひやってみたいと思っていました。

講習では、チェーンソーの組み立て、解体作業を通じて、どういう仕組みでチェーンソーが動いているのかを学び、木を切る際の受け口などの作り方を教えていただきました。

チェーンソーで木を切る際には力を入れず、チェーンソーの重みを上手く使うとすんなりと切れると教えていただきましたが、実際には緊張から余計な力が入ってしまい、なかなか上手いきませんでした。とにかく慎重に機械を操作し、無事に修了証明書をいただくことができました。

講習の中で一番印象に残った学びは「林業作業中の事故の多さ」です。講習中何度も先生が「危険」という言葉を発して、注意を促していました。林業はとても大変なお仕事であ

り、常に危険と隣り合わせだということ改めて実感いたしました。また、チェーンソーの操作中に事故の危険から身を守る防護服の仕組みには大変驚きました。

事故は起きてほしくはないですが、もし事故が起ってしまった時に防護服を着用していれば大きな怪我から身を守ることができそうです。

今回の講習を経て、チェーンソーの便利さとともにその扱いの難しさ、危険さを学ぶことができました。そしてそのチェーンソーを使って仕事をしている林業に関わる方々のごさも改めて知ることができました。林業に対する見方が自分の中で大きく変わったと感じます。

林業に携わる方々は安全に配慮するプロフェッショナルとして、自然と向き合っているのだと思います。皆様の安全への姿勢を多くの方々に伝えられるよう発信してまいります。



▲憧れのチェーンソーを操作



緑の雇用



自然と深呼吸する。

もり
森林を守り育てる担い手のための知識・技能の習得を支援します。

JForest 全国森林組合連合会

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索



発行／林野庁 〒100-8952 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話 03-3502-8111 (代) FAX 03-3591-6505
編集／株式会社アイエヌエー 東京都中央区東日本橋2-24-7 印刷／株式会社コームラ 岐阜県岐阜市三輪がりんどびあ3